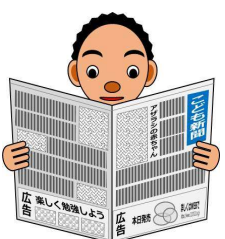


Eコース



めあて

自分の考えをもつことができる

新聞記事を見つけて、友達になりましょう。

一 友達になる新聞記事を見つけましょう。

友達になる新聞記事とは、どのような新聞記事
でしょうか。

次に例をあげておきます。



【友達になる新聞記事の例】

例1 学校で勉強したことと関係がある

新聞記事

例2 知らなかったことを書いてある

新聞記事

例3 生活の中の話題と関係がある新聞記事

例4 自分が興味をもっている新聞記事

例5 今の世の中のことと関係のある新聞記事

例6 家族や先生、友達がすすめてくれる

新聞記事

例7 自分がいつも考えていることや思っ

- いることと関係がある新聞記事
- 例8 郷土のことと関係がある新聞記事
- 例9 ほかの学校のことなどがのっている
新聞記事
- 例10 楽しい話題や行事などがのっている
新聞記事

※ こんな新聞記事をさがして読んでみましょう。
きつと、新しいことに気がつくと思います。
見つかったら、記録しておきましょう

【記録用紙】

見出し	新聞名	月日
		月 日 () 曜日の新聞

見出し	新聞名	月日
		月 日 () 曜日の新聞

二 新聞記事を読んで、新聞感想文を書いてみましょう。新聞感想文を書くときには、書き出しを工夫すると、書きやすくなります。

書き出しの工夫には、次のようなものがあります。ぜひ、参考にしてみてください。

参考1 感動した新聞記事の中のことばの

引用から書き始める。

【例】「地球の未来を考えることができ
る」という新聞記事のことばが、
今でも心に残っている。

参考2 見出しから考えたことから書き始める。

【例】「春が来た」という見出しから、
私は、新入生がたくさん入ってき
た明るい学校を思い出して、うれ
しくなった。

参考3

新聞記事に自分の考えを話しかける

ことばから書き始める。

【例】この陸上選手のしていることに、わたしは心の中で、「すばらしい努力をしていますね」と言った。

参考4

自分の体験から書き始める。

【例】私が見たきれいなもみじが、今日、先生が配ってくれた「阿波っ子タイムズ」にのっていました。そのけしきは、私が見たけしきと同じでした。

参考5

今の気持ちや想像から書き始める。

【例】私が宇宙飛行士になって、ロケットにのっていると、きつと青くて美しい地球が見えていると思う。

参考6

新聞記事に書いてあることに対して、自分の考えていることや思っていることから書き始める。

【例】ある小学校でしている「あきかんボランティア活動」の記事を読んで、わたしも、いつも環境を守ることが大切だと思っている。

参考7

新聞記事の書き手に話しかけることばから書き始める。

【例】「自分も、友達も大切にして、友達をふやしてください」と、この新聞記事を書いた人は、わたしたちに教えてくれていると思った。

※引用（いんよう）とは、本の中のことはや文章をそのまま取り出して書くことです。

三 新聞記事を読んで、感想文を書いてみよう。

感想文の例を書いてみますね。ぜひ、読んでみてください。

【例 十二月十五日 「阿波っ子タイムズ」】

「海底の微生物 1億年のねむりから覚める」
の新聞記事を読んで、書きました。

微生物の不思議

小松島 太郎

「一億年前の微生物が生きていた」。

このことに、わたしは心の底からおどろいた。

生きものには、命があつて、寿命じゅみょうがあるはずだ。

そのようなことは、だれでも

知っているし、当然のことだと、

わたしは考えていた。それなのに、

一億年前の生きものが生きている

なんて、わたしには考えられないし、

想像もつかない。

しかし、十二月十五日の「阿波っ子タイムズ」



を読んでみると、確かにそう書いていた。

その微生物びせいぶつは南太平洋の海底にいるらしい。一億年前というと、恐竜が生きていた時代だそうだ。新聞記事には、それが細菌で「プロテオバクテリア」という名前であることや、「なるべく栄養を使わないように、海の底でじっとしていたようだ」と、どうやって生きてきたのかを書いてあった。そのほかにも、この微生物が
生きているのか化石になって
いるのかを確かめるために、
えさをやって調べたという
ことも書いてあった。



わたしは、微生物の気持ちになつてみた。「もし、わたしが微生物だったら、どのように考えるか」ということだ。

夢のようなことかもしれないけど、わたしが微生物だったら、海を泳ぐ恐竜の姿を見たかもしれない。もし、見えたとしたら、迫力があつただ

ろう、近くに寄ってきたらこわかっただろーうと思
う。

一億年の間に、人間が誕生し、どんどん進化し
ていった。その様子も、見えたのだろうか。いや、
人間だけではない。植物や魚、鳥などのさまざま
な生きものが進化してきた。

地球の様子も変わってきたに
違いない。そのようなことの



すべてをこの微生物は見えたのかと
思うと、わたしはこうふんしてきた。

この新聞記事を読んだ次の日、わたしは、友達
のAさんにこのことを話した。

ちやうど、Aさんもこの新聞記事を読んでいて、
ちよっとした話し合いになった。

Aさんに、

「もし、Aさんだったら、どう思った。」
とたずねると、Aさんは、

「わたしだったら、アーケロンとかいう大きな亀

を見てみたい。何メートルもある大きな鳥がいたという話を聞いたことがあるので、その鳥も見たい。」

と言った。わたしも、そのとおりだと思った。

しかし、なぜ、一億年も

生き続けることができたのか、

不思議でたまらない。これは、

Aさんも同じ意見だ。

新聞記事には、「これほどの

生命力はどこから来るのか、

研究チームは詳しく調べる

予定です」と書いてあった。

わたしたちに、大昔の夢を見せてくれた微生物。

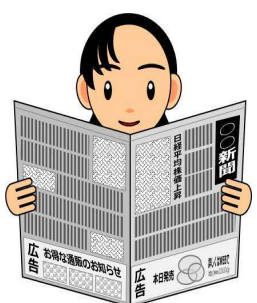
その夢の続きを、研究によって見てみたいと思う。

未知の微生物の、不思議な命の世界が私たちに大きな夢を見せてくれている。



☆ 読んでみて、参考になりましたか。

Fコース



めあて

自分の生き方を考えることができる

新聞記事を見つけて、友達になりましょう。

一 友達になる新聞記事を見つけましょう。

友達になる新聞記事とは、「自分の生き方を考えるきっかけになる新聞記事」のことですね。そんな新聞記事をさがしてみましよう。

次に例をあげておきます。

【友達になる、感想を書きたくなる新聞記事の例】

例1 学校で勉強したことと関係がある新聞記事

例2 自分が力を入れていること、関心をもって
いる話題がのっている新聞記事

例3 自分の知らないこと（疑問）を解決してく
れるような新聞記事

例 4 生活の中の話題と関係がある新聞記事

例 5 自分の考えを広げたり深めたりしてくれそ
うな新聞記事

例 6 スポーツ選手などのことを書いてある
新聞記事

例 7 今の世の中の動きと関係のある新聞記事

例 8 家族や先生、友達が紹介してくれた
新聞記事

例 9 自分が考えていることや思っていること、
新しいことを教えてくれる新聞記事

例 10 人間の生き方にふれている新聞記事

二 新聞記事は、どのように読めばよいでしょう。

例えば、次のようなことを大切にして読むとよい
でしょうね。

大切 1 新聞記事が教えてくれていることを

考えながら読む。

大切2 疑問（ぎもん）をもちながら読む。

大切3 自分と比べながら読む。

大切4 「自分なら……」と考えながら

読む。

大切5 新しいことを知りながら読む。

三 次には、新聞記事を読んで、感想文を書いてみましょう。

1 書くとき、どのような書き方をしたらよいか、考えてみましょう。

次の中から、書きたいことや書けそうなことを選んでみましょう。

① 記事の中から、心に強く残ったことを書く。

② 自分の経験と新聞記事とを、関係づけて書く。

③ 新聞記事に書かれていることで、感動したことを書く。

- ④ 自分ならどうするかを書く。
- ⑤ 自分ならどう考えるか、どう思うかを書く。
- ⑥ 自分も、新聞記事の内容に見習いたいことを書く。
- ⑦ 自分の考えが変わったことを書く。
- ⑧ 新聞記事を読んで、初めて知ったことを書く。
- ⑨ その新聞記事に教えてもらったことを書く。
- ⑩ もっと知りたくなったことを書く。

※ 書きたいことは、見つかりましたか。

2 書き出し

今度は、書き出しを考えましょう。

書き出し① 最も伝えたいことから書き始める。

【例】 「失敗してもいい。次が大事だ。」

私は、この新聞記事を読んで、そう
決意した。

書き出し② 感動したことから書き始める。

【例】 この新聞記事に書かれている〇〇さんのボランティアの心が、私に強くひびいてきた。

書き出し③ 新聞記事が、自分に教えてくれたことから書き始める。

【例】 「やさしい心」という見出しの、この新聞記事は、私に「人のために尽くすこと、このことがいちばん大切なことなのだよ。」と教えてくれた。



書き出し④ 新聞記事の引用から始める。

【例】 「オリンピックやパラリンピックは、世界の人々に、希望と勇気、そして、愛することを教えてくれる。」

四 新聞記事を読んで、感想文を書いてみよう。

感想文の例を書いてみますね。ぜひ、読んでみてください。

【例 十二月十五日 「阿波っ子タイムズ」】

Eコースと同じように「海底の微生物 1億年のねむりから覚める」の新聞記事を読んで、書きました。

一億年のねむりから生命力の神秘へ

海底の微生物が、一億年前から生き続けているという新聞記事を目にした。

見出しには、「海底の微生物

1億年のねむりから覚める」と



書いてあった。私は、心の中に、

不思議さとともに、おどろきを感じた。

海洋研究開発機構のチームが発表したこの事実は、世界中をおどろかせたそうである。私も、そんなことがあるのかと、ほんとうにおどろいた。

長生きをする生きものは、ゾウガメなど、いくつか知ってはいたが、一億年というのは、想像もできないほどの長い時間だ。

「阿波っ子タイムズ」によると、海洋研究開発機構のチームの研究者の人は、一億年もの長い時間どうやって

生きてきたかということ

「なるべく栄養を使わない

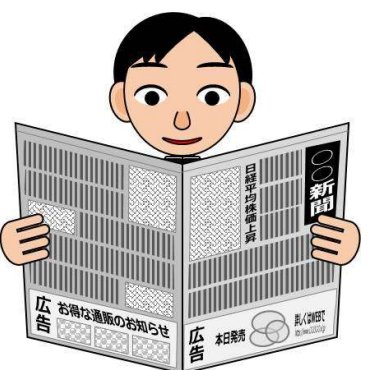
ように、海の底でじっとして

いたようだ」と言っている

そうだ。わたしは、それにしても、よくこれだけ長い時間生きてきたものだど、おどろいたり感心したりした。それとともに、このような研究をする研究者の人の熱心さにもおどろいた。

もし、自分がこの研究をする立場だったら、こんなことができただろうか。

この研究者の人たちは、微生物が生きていますか、どうかを調べるために、えさをあげたそうだ。そ



うしたら、非生物がえさを食べ始めて、約二か月後には、最大で一万倍以上に増えたそうだ。

わたしは、この新聞記事を読みながら、このようにねばり強く研究している人たちを尊敬しはじめた。自分は、研究者ではないけど、ねばり強く何か一つのことを続けることはできない。この研究をする人たちを見習いたいと思う。

この新聞記事の最後には、「これほどの生命力はどこから来るのか、研究チームは詳しく調べる予定です」と書いてある。「詳しく調べる」ためには、どのくらいの時間と努力が必要だろうか。そういうことを考えると、

この研究チームの人たちの

「調べる」ことにかける

心構えや情熱が想像できる。

きっと、とてつもない研究に

立ち向かう熱意があるのだろうと思う。



いつか、この研究者の人たちは、それを解き明かしてくれるに違いない。
私も負けずに、何にでもねばり強く立ち向かいたい。
そして、自分が、一つのことをやり遂げられるような生き方をしたいと思う。そして、いつか、自分の力で「熱意をもって難しいことに立ち向かう」自分をつくっていききたい。



☆ 皆さんも、新聞を読んだ感想文に挑戦してみましよう。

☆ 感想文を書くことは、自分をよく見て、自分の力で、自分を成長させていくことになります。ぜひ、書いてみてください。

